

令和6年度 大田区立西六郷小学校 自己評価 報告書

令和7年3月6日

○ 本校の概要

【自分や友達、地域のウェルビーイングの実現を目指す学校を創ります】
 ・「生きる力」の基盤となる基礎的・基本的な学力の定着を図ります。 ・校内研究「おおたの未来づくり」の学習を通して、よりよい未来を作るための創造的な資質・能力の育成を図ります。
 ・保護者・地域・スクールサポートにしろくと連携し、学校のニーズに合わせた授業補助や環境整備を行い、充実した教育活動を展開します。 ・歌声の響く学校」の伝統を継承し、音楽の力で豊かな感性と素直な心を育みます。
 ・縦割り班活動や学校行事、スポーツテストなど、子ども同士が交流する機会をとらえて、よき校風を継承します。 ・体育の学習を中心に、なわとび月間や持久走月間、早寝早起き朝ご飯の取組などを関連付けて、体力向上・健康の保持増進を図ります。

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組…○ 今後の改善策…◆	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
生予個 き測別 力難標 をな1 育未 成来 社 会を 創 造 的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3.2	児童アンケート「地域について知ろう」として、すすんで行動したりしている「よくできている」と回答した児童の割合(80.1%)	4:90以上	○今年度校内研究で「おおたの未来づくり」の基礎研究・授業づくりに取り組んだ。5回の授業研究を通じ、課題を解決する力、新たな価値を創造する力、その素地の育成を目指した授業づくりについて全教員で学びを積み重ねてきた。また、教科横断的な学びや創造的な資質・能力の育成のために各学年で年間指導計画を作成し、取り組んだ。	A	6	・多様な情報から適切なものを選び出し、考え、まとめる力が付いてきているように思う。 ・地域の行事などに参加している児童はとて積極的に行動している。 ・児童及び保護者のアンケート結果は、全ての項目において肯定的な回答が80%以上と高い評価を得ているため、学校の取組の成果が出ていると思う。更に向上を目指して取組の継続をお願いします。(個別目標1～6を通して)
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3:80以上				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2:70以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1:70未満				
お世個 お別 たと 目 を つ 標 担 な 2 う が 人 材 国 を 際 育 都 成 市 し ま す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3.6	児童アンケート「すすんで友達と考えを伝え合っている」の設問に対して「よくできている」「できている」と回答した児童の割合(84.9%)	4:90以上	○小中一貫教育の会で中学校と連携し、「相手意識をもってすすんでコミュニケーションを図る児童生徒を育てる指導」を外国語科の重点指導事項として日常の授業づくりに取り組んだ。 ◆外国語教育指導員を活用し、休み時間のイングリッシュカフェ等の機会を設定し、児童が自分から英語でコミュニケーションを図れる機会を増やしていく。 ○中・高学年では各教科の授業の中で現代社会の課題について学習し、自分事として捉え考えをもたせるようにしてきた。「おおたの未来づくり」に関連し、創造的な資質・能力の育成を意識することで、考えたことを発信する機会が増えた。 ◆全ての学習を通じ、低学年から発達段階に応じ、こどもたち自身が社会における課題を自分事として捉えられるよう意識して指導する。また課題解決に向け、表現したり行動したりする力を付けさせていく。 ◆環境教育の視点から給食でストローを使わないことを推奨していく。身近なところから問題意識をもち、行動することを学校全体で推進する。	A	7	・英語に授業で触れたり、お友達の多言語に触れる機会もあつたりしてこどもたちの意識は広がって、考え方の違いを認め合うところにつながって上手になってきたと思う。 ・外国語教育については次のように感じている 成長期→自分の考えをはっきり言える→一語能力
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3:80以上				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2:70以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1:70未満				
た一個 め人 の目 基と標 礎り3 とが な個 る性 力と を能 育力 成を し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生き抜く上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3.7	保護者アンケート「学校は一人一人のこどもを大切にしたい教育活動をしていますか」の設問に対して「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答した保護者の割合(88.1%)	4:90以上	○今年度は音楽会・展覧会を実施した。これらの行事に向けての取組や事前事後の交流活動などを通じ、音楽や図工に楽しんで取り組む児童の姿が多く見られた。また、課外活動である合唱部や合唱団の歌声を全校で鑑賞する機会を多く設定し、「歌声が響く学校」の伝統を継承し、音楽を通して豊かな感性と素直な心の育成を目指してきた。 ○分かりやすい授業と明確な目標を提示し、スモールステップで指導することで多くの児童が学習に前向きに取り組めた。 ○低学年では、学校特別支援員、学校特別補助員の活用により、配慮を要する児童の個別対応ができていた。 ○「早寝早起き朝ご飯」月間だけでなく、長期休業日にも生活リズムを整えるための取組(いきいきハビ貯金)を実施することで、生活習慣を意識して過ごす児童が増えてきた。 ○スタートカリキュラムの工夫により、1年生がスムーズに学校生活に慣れ、活動することができた。 ◆放課後補習をより効果的に実施するために、実施方法や学習内容を見直し、学習補助員と連携し充実を図る。	A	7	・行事への取り組みはとて熱心に活動している様子が見られる。学習習熟度に関しては、補習により補われているように思うが、個々のばらつきがかなり見られるように思う。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3:80以上				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2:70以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1:70未満				
た一個 め人 の目 基と標 礎り3 とが な個 る性 力と を能 育力 成を し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生き抜く上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3.2	保護者アンケート「学校は一人一人のこどもを大切にしたい教育活動をしていますか」の設問に対して「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答した保護者の割合(88.1%)	4:90以上	○今年度は音楽会・展覧会を実施した。これらの行事に向けての取組や事前事後の交流活動などを通じ、音楽や図工に楽しんで取り組む児童の姿が多く見られた。また、課外活動である合唱部や合唱団の歌声を全校で鑑賞する機会を多く設定し、「歌声が響く学校」の伝統を継承し、音楽を通して豊かな感性と素直な心の育成を目指してきた。 ○分かりやすい授業と明確な目標を提示し、スモールステップで指導することで多くの児童が学習に前向きに取り組めた。 ○低学年では、学校特別支援員、学校特別補助員の活用により、配慮を要する児童の個別対応ができていた。 ○「早寝早起き朝ご飯」月間だけでなく、長期休業日にも生活リズムを整えるための取組(いきいきハビ貯金)を実施することで、生活習慣を意識して過ごす児童が増えてきた。 ○スタートカリキュラムの工夫により、1年生がスムーズに学校生活に慣れ、活動することができた。 ◆放課後補習をより効果的に実施するために、実施方法や学習内容を見直し、学習補助員と連携し充実を図る。	B	2	・行事への取り組みはとて熱心に活動している様子が見られる。学習習熟度に関しては、補習により補われているように思うが、個々のばらつきがかなり見られるように思う。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3:80以上				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2:70以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1:70未満				
た一個 め人 の目 基と標 礎り3 とが な個 る性 力と を能 育力 成を し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生き抜く上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3.5	保護者アンケート「学校は一人一人のこどもを大切にしたい教育活動をしていますか」の設問に対して「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答した保護者の割合(88.1%)	4:90以上	○今年度は音楽会・展覧会を実施した。これらの行事に向けての取組や事前事後の交流活動などを通じ、音楽や図工に楽しんで取り組む児童の姿が多く見られた。また、課外活動である合唱部や合唱団の歌声を全校で鑑賞する機会を多く設定し、「歌声が響く学校」の伝統を継承し、音楽を通して豊かな感性と素直な心の育成を目指してきた。 ○分かりやすい授業と明確な目標を提示し、スモールステップで指導することで多くの児童が学習に前向きに取り組めた。 ○低学年では、学校特別支援員、学校特別補助員の活用により、配慮を要する児童の個別対応ができていた。 ○「早寝早起き朝ご飯」月間だけでなく、長期休業日にも生活リズムを整えるための取組(いきいきハビ貯金)を実施することで、生活習慣を意識して過ごす児童が増えてきた。 ○スタートカリキュラムの工夫により、1年生がスムーズに学校生活に慣れ、活動することができた。 ◆放課後補習をより効果的に実施するために、実施方法や学習内容を見直し、学習補助員と連携し充実を図る。	C	7	・行事への取り組みはとて熱心に活動している様子が見られる。学習習熟度に関しては、補習により補われているように思うが、個々のばらつきがかなり見られるように思う。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3:80以上				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2:70以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1:70未満				
た一個 め人 の目 基と標 礎り3 とが な個 る性 力と を能 育力 成を し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生き抜く上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3.3	保護者アンケート「学校は一人一人のこどもを大切にしたい教育活動をしていますか」の設問に対して「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答した保護者の割合(88.1%)	4:90以上	○今年度は音楽会・展覧会を実施した。これらの行事に向けての取組や事前事後の交流活動などを通じ、音楽や図工に楽しんで取り組む児童の姿が多く見られた。また、課外活動である合唱部や合唱団の歌声を全校で鑑賞する機会を多く設定し、「歌声が響く学校」の伝統を継承し、音楽を通して豊かな感性と素直な心の育成を目指してきた。 ○分かりやすい授業と明確な目標を提示し、スモールステップで指導することで多くの児童が学習に前向きに取り組めた。 ○低学年では、学校特別支援員、学校特別補助員の活用により、配慮を要する児童の個別対応ができていた。 ○「早寝早起き朝ご飯」月間だけでなく、長期休業日にも生活リズムを整えるための取組(いきいきハビ貯金)を実施することで、生活習慣を意識して過ごす児童が増えてきた。 ○スタートカリキュラムの工夫により、1年生がスムーズに学校生活に慣れ、活動することができた。 ◆放課後補習をより効果的に実施するために、実施方法や学習内容を見直し、学習補助員と連携し充実を図る。	D	7	・行事への取り組みはとて熱心に活動している様子が見られる。学習習熟度に関しては、補習により補われているように思うが、個々のばらつきがかなり見られるように思う。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3:80以上				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2:70以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1:70未満				

学 校 別 力 目 標 教 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3.2	保護者アンケート「学校はわかりやすい授業に努めていますか」の設問に対して「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答した保護者の割合(91.9%)	4:90以上	4	○授業力・教師力向上の目的で、若手教員のための主任教諭等によるOJT研修を年5回実施した。指導教諭の模範授業や他校研究発表会など学校外での研修による学びを自主的に伝達する教員も出てきて、学び合う職場の風土が高まった。	A	8	
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			3:80以上					
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。			2:70以上					
			1:70未満								
た 自 個 別 の 目 標 を い き 支 え し ま す	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整え、相対機能の充実を図ること、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3.5	児童アンケート「自分にはよいところがある」の設問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合(84.9%)	4:90以上	3	○特別支援教育の充実を図るため、矢口特別支援学校のコーディネーター派遣制度を活用し、長期休業日中に全教員対象の研修会を実施した。また、指導上課題のある児童への対応を検討するため、3回の来校相談を継続的に実施した。	A	6	
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。			3:80以上					
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			2:70以上					
			1:70未満								
安 柔 個 心 教 別 な で 目 教 創 標 育 造 6 環 境 な を 学 習 く り ま す	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3.4	保護者アンケート「学校は、教室や校舎内外の環境を整備するなどの子どもの安全確保のための取組を行っている」の設問に対して「よく行っている」「行っている」と回答した保護者の割合(93%)	4:90以上	4	○毎月1回の安全点検だけでなく、危険な箇所や学習環境として望ましくない状態の場所があれば、すぐに情報共有し、素早く対処した。教職員の公務災害が起きた箇所についても事務主事・用務主事と連携して改善した。	A	8	
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			3:80以上					
			2:70以上								
			1:70未満								
学 地 学 校 校 域 校 域 を コ ミ 家 標 ク 庭 7 リ ニ ・ ま テ 地 域 の 核 連 と 携 し て 協 働 に よ る	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3.2	保護者アンケート「学校はスクールサポートにしるくを活用し、授業を支援したり環境を整えたりするなど、子どもの育ちを支える仕組みをつくっている」の設問に対して「よく当てはまる」「当てはまる」に回答した保護者の割合(90.2%)	4:90以上	4	○「おおたの未来づくり」や1～4年生の創造的な資質・能力育成を目的とした各教科の授業づくりにより、地域の方を授業パートナーとする、地域に根ざした学習活動が充実してきた。	A	7	
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			3:80以上					
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			2:70以上					
			1:70未満								

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す